

新年度を迎えて

—薬剤師生涯学習の新パラダイムの幕開けに—

内山 充

この度の東日本大震災及びその後の原発災害に罹災された多くの方々に、心からお見舞いを申し上げます。また被災者支援や復興活動にいち早く活動されている方々、その中には全国各地からの応援を含めて薬剤師も多数参加しておられることを各方面からうかがっていますが、それらの方々に心より敬意を表します。

薬剤師の専門職能の向上は、いかなる社会環境においても怠ることはできません。平時、非常時を問わず、薬剤師業務に対する社会的要求と期待はますます高まっており、薬剤師業務への信頼獲得と、業務領域の拡充開拓が急務となっています。そしてその成否は「人づくり」に関わる生涯学習の質の向上に懸かっていると云えるでしょう。

国民的災害と不安に直面している現在こそ、皆がそれぞれ自分のなすべきことを弁え、最善を尽くすことで、一日も早い回復と、明るい将来を作ることに協力できるものと思います。当機構は、地域社会の保健・医療の向上と、公衆衛生の進展に貢献できる薬剤師を育てるために実施されている、各種の「薬剤師生涯学習制度」を第三者評価して、基準に適する制度を認証して水準を確保することが責務です。

新年度を迎えるに当たり、新公益社団法人として、「非営利」と「公開」という基本原則に則り、組織や執行体制の改善・拡充、並びに認証を受けた機関のフォローアップ等に必要で適切な方策を、積極的に実施することで責務を果たしたいと考えます。

わが国で薬剤師生涯学習が組織的に取り上げられてから、既に15年以上を経過しましたが、それが真に社会に役立ち、必要な効果をもたらすためには、体制整備や制度運営の上でまだ多くの課題が残されています。

最近、職域団体の中で、分野ごと、職域ごと、あるいは地域単位で、それぞれ生涯学習の核となる研修・認定制度を、自主・自律的に企画する新しい動きが出て来ました。効果的でかつ有益な生涯研修制度を全国展開するという観点からみて、まことに好ましい傾向です。

新年度は、このような傾向を追い風として、意欲的な関係諸団体と協力して、平成22年12月に日本薬学会から公表された「[薬学の展望とロードマップ](#)」の中に「生涯学習新パラダイムの構築」として記された学習体制の定着に近づきたいと思います。そして、具体的には、その新パラダイムに沿って「[2月9日付のコラム](#)」で提案したような、生涯学習履歴の証明を指標とする実質的免許更新制を目指した体制整備の幕開けの年にしたいものです。

(2011. 4. 1)